

1. 病害虫名： クロネハイイロヒメハマキ *Rhopobota naevana* (Hübner)
2. 発生作物： オリーブ
3. 発生地域： 小豆島町
4. 発生確認の経過

- (1) 令和2年8月に香川県農業試験場小豆オリーブ研究所内のオリーブにおいて、新梢の葉を綴って食害しているハマキムシの幼虫を見つけ、採取して飼育したところ、これまでの加害種とは異なる蛾が羽化した。このため、羽化成虫について神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、クロネハイイロヒメハマキ(写真1)であることが確認された。
- (2) 同年9月～10月に県内の経済栽培園地や街路樹などのオリーブを加害しているハマキムシ類を調査したが、本種の寄生は確認できなかった。
- (3) なお、小豆オリーブ研究所及び病害虫防除所が従来から確認していたオリーブを加害するハマキムシ類は、チャハマキ、チャノコカクモンハマキ及びマエアカスカシノメイガの3種であった。

#### 5. 国内の発生状況

- (1) 本種の寄主植物は、リンゴ、ズミ、ウワミズザクラ(以上バラ科)、イボタノキ(モクセイ科)、イヌツゲ、アオハダ(以上モチノキ科)である。
- (2) 本種は、国内では北海道から沖縄まで広く分布しているため、本県全域に生息していると考えられる。
- (3) 広範囲に生息している虫であるが、オリーブへの寄生の報告は国内初と考えられる。

#### 6. 形態および生態

- (1) 成虫の体長は、開張11～23mmで、幼虫の体長は約10mmである。
- (2) オリーブでは、幼虫は新芽や新梢を綴り合わせて食害し、その中で蛹化する。
- (3) リンゴでは、年間3～5回発生すると言われており、枝や幹に産み付けられた卵で越冬する。

#### 7. 防除対策

- (1) 本種は、ハマキムシ類の一種であることから、オリーブまたは果樹類のハマキムシ類に対して登録のある農薬で防除する。
- (2) 発生を確認した場合は寄生している葉ごと速やかに除去し、適切に処分する。

#### 8. 参考文献

- (1) 梅谷・岡田編(2003)日本農業害虫大辞典
- (2) 那須他編(2013)日本産蛾類標準図鑑IV

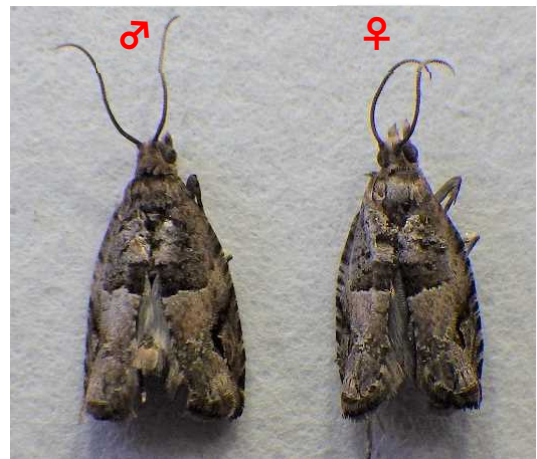


写真1 クロネハイイロヒメハマキ成虫  
(香川県農業試験場小豆オリーブ研究所撮影)